マタイ 14:22-33「信仰によって歩む」

「それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登りになった。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。ところが、舟は既に陸から何スタディオンか離れており、逆風のために波に悩まされていた。夜が明けるころ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた。弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、『幽霊だ』と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた。イエスはすぐ彼らに話しかけられた。『安心しなさ。わたしだ。恐れることはない』　すると、ペトロが答えた。『主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください』　イエスが『来なさい』と言われたので、ペトロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。しかし、強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、『主よ、助けてください』と叫んだ。イエスはすぐに手を伸ばして捕まえ、『信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか』と言われた。そして、二人が舟に乗り込むと、風は静まった。舟の中にいた人たちは、『本当に、あなたは神の子です』と言って、イエスを拝んだ」

信仰によって歩む、というのは、水の上を歩くようなことである。あなたが信じるなら、あなたは、しっかり立って歩むことができる。あなたが疑うなら、あなたは沈んでしまう。今日お読み頂いた聖書は、信仰について、わたしたちに語っています。

信仰とは、何でありましょうか？　信仰とは、わたしたちの弱さに根ざしているものであります。

今日の聖書を読みますときに、イエスさまから「先に舟に乗って渡っていなさい」と言われた弟子たちは、勇んで出かけたのですが、激しい逆風にあおられて、漕いでも漕いでも、ちっとも先に進まず、へとへとに疲れ果て、とうとう湖の真ん中で立ち往生してしまいました。

おのれの全力を尽くし、最善をなそうとした。けれど、どうすることもできず、

もう諦めるしかなくなった。これが、弟子たちです。弟子たちは、弱かったのです。そうして、この弱さの中に、信仰が、生じるのです。

いったい、弟子たちに逆風が吹かず、吹いたとしても、強力なエンジンが載せられていて、なんなく湖を渡り切っていたとしたら、どうでしょう？　もしそうであったら、弟子たちは、悩むことも、祈ることも、叫ぶことも、主にすがることもなく、それゆえ、主イエスキリストにほんとうに出会うということも、なくなってしまったでしょう。

信仰とは、必ず、弱さの中に根ざしているのものです。いったい、おのれの弱さに直面する、ということが無いならば、主に祈り求め、主にすがりつく、という信仰は、生じ得ません。「貧しい者は幸いだ」と言われたのは、その謂いです。

信仰は弱さの中に根ざしている、と言うとき、わたしたち自身の弱さがあります。しかし、最大の弱さは、主イエスが、わたしたちと共におられない、という弱さであります。逆風にあおられ、舟を漕ぎあぐねていたとき、弟子たちのそばに、主イエスキリストは、おられませんでした。主の不在。遠くにおられ、姿が見えない主。その弱さ。その不安。それゆえの恐れ。

わたしたちもまた、主のお姿が見えないという、人生の暗闇を通らされることがあります。「主よ、あなたは、どこにおられるのですか！」と叫ばずにはおられない精神状態に落とされるときがございます。ある聖徒はこれを「魂の暗夜」と呼んで、恐れました。わたしたちの最大の弱さです。

しかし、わたしたちは感謝しましょう。最大の弱さの中に、まことの信仰が生じるのです。「魂の暗夜」の中で、わたしたちは、自分の自信には、一切頼ることが出来ません。自分の感覚には、一切頼ることが出来ません。自分の感情には、一切頼ることが出来ません。自分の経験には、一切頼ることが出来ません。何ひとつ頼ることが出来ません。ただ単純に、主イエスを信頼することが出来るだけです。そうして、主イエスをのみ信じ、主イエス以外の一切のものに対する依存や執着が取り払われたときに、ほんとうの信仰が生じるのです。

そうして、大いなる神のみわざは、ただ信仰によって、実現されます。わたしたちの救いも、わたしたちの聖潔も、わたしたちの復活も、すべては、ただ信仰によってのみ、実現されるのです。このことについて、パウロは、ローマの信徒への手紙第 1 章 17 節で、このように述べています。

「福音には、神の義が啓示されていますが、それは、初めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。『正しい者は信仰によって生きる』と書いてあるとおりです」

福音には、神の義が啓示されています。それらは、信仰によって、実現されます。福音は、わたしたちに、何と告げているでしょうか？

福音が告げていることの第一は、神は主イエスキリストの十字架によって、わたしたちの罪を赦してくださった、ということです。これは、完成された神のみわざです。わたしたちは、これに、何一つ、付け加えることが出来ません。

福音が告げていることの第二は、神は主イエスキリストの十字架によって、わたしたちの古い人をも十字架につけ、取り除いてくださった、ということです。これは、完成された神のみわざです。わたしたちは、これに、何一つ、付け加えることが出来ません。

福音が告げていることの第三は、神は主イエスキリストを復活させ、その復活の命によって、わたしたちをも生かしていてくださる、ということです。これは、完成された神のみわざです。わたしたちは、これに、何一つ、付け加えることが出来ません。

これらは、完成された神のみわざです。わたしたちは、これらに何か足したり引いたりすることは、出来ません。そうして、わたしたちが、福音が告げる、これらの神のみわざを信じるときに、神のみわざは、わたしたちの経験の中へと、もたらされ、実現されるのです。

主イエスキリストのゆえに、わたしは罪赦された。
主イエスキリストにあって、わたしの古い人は、取り除かれた。
主イエスキリストが復活の命をもって、わたしを生かしてくださる。
「そうです、主よ。あなたがそのようにして下さったと信じます」と言うときに、それらは、わたしたちの経験の中へと、もたらされ、実現されます。

このことについて、パウロは、コリントの信徒への手紙二第 5 章 14 節から 17 節で、こう述べています。

「わたしたちはこう考えます。すなわち、一人の方がすべての人のために死んでくださった以上、すべての人も死んだことになります。その一人の方はすべての人のために死んでくださった。その目的は、生きている人たちが、もはや自分自身のために生きるのではなく、自分たちのために死んで復活してくださった方のために生きることなのです。それで、わたしたちは、今後だれをも肉に従って知ろうとはしません。肉に従ってキリストを知っていたとしても、今はもうそのように知ろうとはしません。だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた」

「肉に従ってキリストを知っていた」という表現に注意しましょう。わたしたちは、実はキリストに頼っていたのではなく、自分の自信に頼っていた、ということがあるのです。実はキリストに頼っていたのではなく、自分の感覚に頼っていた、ということがあるのです。実はキリストに頼っていたのではなく、自分の感情に頼っていた、ということがあるのです。実はキリストに頼っていたのではなく、自分の経験に頼っていた、ということがあるのです。

しかし、そのように、肉に従ってキリストを知っていたとしても、「魂の暗夜」を通らされるときに、わたしちは、もはや、肉によってキリストを知ることが、出来なくされてしまいます。「魂の暗夜」の中で、わたしたちの自信は粉々にされます。わたしたちの感覚は衰弱させられます。わたしたちの感情は底に落とされます。わたしたちの経験は、暗く覆われてしまいます。

そのようにして、わたしたちは、ただ単純に、主イエスキリストによりすがり、主イエスキリストがなし遂げてくださったみわざにのみ、依り頼むようにされて行きます。

それが、信仰によって歩む、ということです。ちょうど、水の上を歩くようなことです。

風が吹きすさび、嵐が荒れ狂う中で、ペトロは、ひたすら、主イエスキリストを、主イエスキリストのみを、みつめました。「さあ、来なさい」という主の招きの声を聞きました。招きに応答して、ペトロは、舟から一歩踏み出し、次の瞬間、ペトロは水の上に立って、歩き始めておりました。

これが、信仰によって歩む、ということです。主イエスキリストのみを見ています。もはや、自分を見ていないのです。主イエスキリストのみを見ています。もはや、自分を取巻く環境や状況を見ていないのです。

徹底的な弱さの中に置かれているゆえに、ここでは、自分を見ることが、何の役にも立ちません。自分自身というのは、いくら漕いでも少しも前に進むことが出来ない、弱い自分です。自分を見つめる、ということは、ここでは、何の役にも立ちません。ペトロは、主から目を離して、自分を見た途端に、沈んでしまいました。

さらにまた、ここでは、自分を取巻く環境や状況を見ることが、何の役にも立ちません。風が吹きすさび、嵐が荒れ狂うという状況を、どんなに見つめ、どんなに分析したところで、何にもなりません。ペトロは、主から目を離して、風や波を見た途端に、沈んでしまいました。

わたしたちは、人生の暗闇の中で、弱くさせられて行くことがございます。そのようなとき、わたしたちは、自分自身に目を注ぎます。わたしの過去のあのことが悪かったのだ。わたしの過去のこのことが悪かったのだ。わたしの性格のこの部分が悪かったのだ。わたしの気質のこの部分が悪かったのだ。自分を見つめれば見つめるほど、わたしたちは絶望して、沈んで行ってしまいます。

わたしたちは、自分を取巻く環境や状況にも目を注ぎます。わたしを育ててくれた父が悪かったのだ。わたしを育ててくれた母が悪かったのだ。わたしが生まれついた時代が悪かったのだ。わたしが出会ってしまった、あの人が悪かったのだ。わたしに敵対して来た、この人が悪かったのだ。社会そのものが悪かったのだ。人間が悪かったのだ。神が悪かったのだ。自分を取巻く環境や状況に目を注げば注ぐ程、わたしたちは絶望して、沈んで行ってしまいます。

しかし、絶望して死んでしまいそうになる瞬間、わたしたちは、大声で叫ばなければなりません。それはちょうど、沈んだペトロが叫んだようにです。ペトロはこう叫びました。

「主よ、助けてください！」

徹底的な弱さの中に置かれて、自分に頼ることが出来ず、環境や状況にも頼ることができないとき、わたしたちは、ほんとうにただ単純に、主イエスキリストにのみ、頼るようにされています。まことの弱さの中からまことの信仰が生じるのです。

主イエスキリストに、単純に信頼する。それが、信仰です。主イエスキリストが成し遂げてくださったみわざに、単純に信頼する。それが、信仰です。わたしたちの心の中に起こる疑いを、わきへ置いて、主に単純に信頼すること。それが、信仰です。

わたしの自信、わたしの感覚、わたしの感情、わたしの経験を、わきへ置いて、主に単純に信頼すること。それが、信仰です。いままで肉に従ってキリストを知っていたとしても、それらをすべてわきへ置いて、主に単純に信頼すること。それが、信仰です。

わたしがこのようなものであるにもかかわらず、「さあ、ここへ来なさい」と招いて下さる主に、単純に信頼して、一歩を踏み出すこと。それが、信仰です。わたしがこのようなものであっても、すぐ手を伸ばして捕まえてくださる主に、単純に信頼して、なお一歩を踏み出すこと。それが、信仰です。

主イエスは、わたしたちをお叱りになります。「信仰の薄い者よ、なぜ疑うのか」と。

なぜ、わたしたちは疑うのでしょう。神は主イエスキリストの十字架によって、わたしたちの罪を赦してくださったのです。わたしたちはそこに、何か足したり引いたりすることは、できません。神が完成されたみわざであるからです。

なぜ、わたしたちは疑うのでしょう。神は主イエスキリストの十字架によって、わたしたちの古い人をも十字架につけ、取り除いてくださったのです。わたしたちはそこに、何か足したり引いたりすることは、できません。神が完成されたみわざであるからです。

なぜ、わたしたちは疑うのでしょう。神は主イエスキリストを復活させ、その復活の命によって、わたしたちを生かしてくださっているのです。わたしたちはそこに、何か足したり引いたりすることは、できません。神が完成されたみわざであるからです。

「信仰の薄い者よ、なぜ疑うのか」と主は言われます。わたしたちは、わたしたちの疑いを、わきへ置かなければなりません。わたしたちは、わたしの自信、わたしの感覚、わたしの感情、わたしの経験を、わきへ置かなければなりません。その上で、ただ単純に、主に信頼しなければなりません。

「そうです、主よ。あなたがそのようにして下さったと信じます」　そう言って、自分自身を、まったく主におゆだねしなければなりません。

そのとき、聖書の言葉が実現します。「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者である。古いものは過ぎ、新しいものが生じた。これらはすべて神から出たことである」

祈りましょう。

祈り

天の父なる神さま。わたしたちは、いま、自分の疑いを、わきへ置きたいと願っております。わたしの自信、わたしの感覚、わたしの感情、わたしの経験を、わきへ置いて、ただ単純に、主イエスに信頼し、おすがりしたいと願っております。
わたしたちに福音が告げられて参りました。わたしたちは、昔からそれを聞いて、知っておりました。今までに、何度も何度も聞いて、それを知っておりました。しかし、わたしたちは、福音が告げるところの神の義を、今日新たに聞きたいと願っております。
主よ、あなたは、主イエスキリストの十字架によって、わたしたちの罪を赦してくださいました。
主よ、あなたは、主イエスキリストの十字架によって、わたしたちの古い人をも十字架につけ、取り除いてくださいました。
主よ、あなたは、主イエスキリストを復活させ、その復活の命によって、わたしたちを生かしてくださっています。
そうです、主よ。あなたが、わたしたちに、そのようにして下さった、ということを信じます。あなたのお言葉とおり、この身になる、ということを信じます。いま、自分自身を、まったくあなたの御手の中に、あなたのおこころの中に、おゆだねしいたします。わたしたちは、まったく、あなたのものです。
わたしたちを赦し、わたしたちをきよめ、わたしたちにとこしえの命を授けてくださったことを、信じて、心から感謝いたします。
主イエスキリストの御名によって祈ります。
アーメン